

【NVIDIA プレスリリース】

2019 年会計年度第 3 四半期の業績を発表

- データセンター、プロフェッショナル ビジュアライゼーション、自動車の各プラットフォームで過去最高の売上
- 四半期現金配当は 7% 増の 1 株当たり 0.16 ドル
- 2020 年会計年度についてはさらに 30 億ドルを株主に還元する予定

カリフォルニア州サンタクララ (2018 年 11 月 15 日)-- NVIDIA (NASDAQ: NVDA) は、2018 年 10 月 28 日に終了した第 3 四半期の売上高が 31 億 8,000 万ドルとなったと発表しました。これは、前年同期の 26 億 4,000 万ドルから 21% 増、前四半期の 31 億 2,000 万ドルからは 2% 増にあたります。

米国 GAAP に基づく業績では、第 3 四半期の希薄後 1 株当たり利益は 1.97 ドルで、前年同期の 1.33 ドルから 48% 増、前四半期の 1.76 ドルからは 12% 増となりました。非 GAAP に基づく業績では、希薄後 1 株当たり利益は 1.84 ドルで、前年同期の 1.33 ドルから 38% 増、前四半期の 1.94 ドルから 5% 減となりました。

NVIDIA の創業者/CEO であるジェンソン・ファン (Jensen Huang) は、次のように述べています。「AI は全世界で信じられない速さで進歩を遂げており、NVIDIA のデータセンター プラットフォームでの過去最高の売上の推進要因となっています。NVIDIA が Turing GPU を導入したことにより、コンピューター グラフィックスと AI が大きな飛躍を遂げ、リアルタイム レイ トレーシングという魔法をゲームにもたらすとともに、NVIDIA が実現した中でも最大の世代間におけるパフォーマンスの向上につながりました。

NVIDIA の短期的な業績は、仮想通貨ブームが去った後の過剰な流通在庫を反映したもので、これは解消されるでしょう。NVIDIA の市場での地位と成長機会は、これまでにならぬほど力強さを増しています。当四半期、新たな成長市場に NVIDIA のアーキテクチャを広げるための新しいプラットフォームを投入しました。機械学習のための RAPIDS、フィルム レンダリングのための RTX サーバー、そしてハイパースケールとクラウド用の T4 Cloud GPU です。」

資本の還元

NVIDIA は、2019 年会計年度の第 3 四半期までの累計で、8 億 5,500 万ドルの自社株買いと 2 億 7,300 万ドルの四半期現金配当により、合計で 11 億ドル 3,000 万ドルを株主に還元しました。

2018 年 11 月、取締役会で自社株買いプログラムによる追加の 70 億ドル分が承認され、2022 年 12 月末までに合計で 79 億 4,000 万ドルの買い戻しが可能となりました。

四半期現金配当については、1 株当たり 0.15 ドルから 7% 増の 1 株当たり 0.16 ドルとなると発表しました。次回の四半期現金配当は、2018 年 11 月 30 日を配当基準日として、2018 年 12 月 21 日に支払われる予定です。

NVIDIA は、2020 年会計年度末までに、さらに 30 億ドルを株主に還元する予定で、これは 2019 年会計年度の第 4 四半期から開始となる見込みです。

2019 年会計年度第 3 四半期の概要

四半期財務情報 (GAAP ベース) の比較

(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)	Q3 FY19	Q2 FY19	Q3 FY18	Q/Q	Y/Y
売上高	\$3,181	\$3,123	\$2,636	2% 増	21% 増
売上高総利益率	60.4%	63.3%	59.5%	290 bps 減	90 bps 増
営業費用	\$863	\$818	\$674	6% 増	28% 増
営業利益	\$1,058	\$1,157	\$895	9% 減	18% 増
純利益	\$1,230	\$1,101	\$838	12% 増	47% 増
希薄後 1 株当たりの利益	\$1.97	\$1.76	\$1.33	12% 増	48% 増

四半期財務情報 (非 GAAP ベース) の比較

(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)	Q3 FY19	Q2 FY19	Q3 FY18	Q/Q	Y/Y
売上高	\$3,181	\$3,123	\$2,636	2% 増	21% 増
売上高総利益率	61.0%	63.5%	59.7%	250 bps 減	130 bps 増
営業費用	\$730	\$692	\$570	5% 増	28% 増
営業利益	\$1,210	\$1,290	\$1,005	6% 減	20% 増
純利益	\$1,151	\$1,210	\$833	5% 減	38% 増
希薄後 1 株当たりの利益	\$1.84	\$1.94	\$1.33	5% 減	38% 増

2019 年会計年度第 4 四半期については、以下のように予想されます。

- 売上高は、27 億ドル $\pm 2\%$ となる見込みです。
- 売上高総利益率は、GAAP ベースが $62.3\% \pm 0.5\%$ 、非 GAAP ベースが $62.5\% \pm 0.5\%$ となる見込みです。

- 営業費用は、GAAP ベースが約 9 億 1,500 万ドル、非 GAAP ベースが約 7 億 5,500 万ドルとなる見込みです。
- GAAP ベースおよび非 GAAP ベースのその他の収益および費用は、約 2,100 万ドルの利益となる見込みです。
- GAAP 税率および非 GAAP 税率は、ともに 8% ± 1% となる見込みです (個別項目は除く)。GAAP ベースの個別項目は、四半期ベースで変動すると NVIDIA が予想する、株式報酬に関連した税制優遇措置の過不足を含みます。

2019 年会計年度第 3 四半期のハイライト

第 2 四半期の業績発表以降、NVIDIA は以下のような幅広い成果を上げました。

全社：

- レイ トレーシングを加速する新しい RT コアと、AI による推論のための新しい Tensor コアを搭載した、画期的な [NVIDIA Turing™ GPU アーキテクチャ](#) を発表しました。
- サンノゼと台北での開催後にミュンヘン、テルアビブ、東京、ワシントンで開催された GPU テクノロジー カンファレンスには、およそ 1 万 3,000 人が出席しました。NVIDIA では、今年の GTC 出席者の総数を 2017 年から 30% 増の 3 万人と予想しています。

データセンター：

- 世界最速のスーパーコンピューターの [最新の TOP500 リスト](#) で、NVIDIA GPU アクセラレーターを使用しているシステムの数が前年から 48% 増の 127 に急増したことを発表しました。これには、世界最速のスーパーコンピューター、米国での第 1 位、ヨーロッパでの第 1 位および日本での第 1 位が含まれます。
- データサイエンスや機械学習向けのオープンソースな GPU アクセラレーション プラットフォームである、[RAPIDS™](#) を投入しました。すでに Dell EMC、Hewlett Packard Enterprise、IBM、Oracle、SAP といった業界を代表する企業により幅広く採用されています。
- ハイパースケール データセンターにおける音声、動画、画像および推奨のサービス向けに高度な高速化を実現する [NVIDIA T4 Cloud GPU および NVIDIA TensorRT™ Hyperscale 推論プラットフォーム](#) を投入しました。最初の 2 カ月間で、[T4 はすべてのサーバー GPU の中で最も早く採用された GPU](#) となり、大手のコンピューター メーカーにおける 57 件の個別の設計で採用され、また Google Cloud Platform 上でも利用可能となりました。
- [NVIDIA RTX™ サーバー](#) を発表し、データセンターにおけるフォトリアルなレンダリングのための GPU に新たな市場を切り開きました。
- [NVIDIA Clara™ プラットフォーム](#) を発表しました。これは、次世代の医療機器に、病気の早期発見、診断支援および治療支援のための強力なツールとして AI を採り入れるものです。

ゲーム:

- Turing アーキテクチャおよび NVIDIA RTX プラットフォームをベースとする初のゲーム用 GPU、[GeForce RTX™ シリーズ](#)をリリースしました。これは、次世代のシェーダーと、リアルタイムのレイ トレーシングや、ディープラーニング スーパーサンプリング アンチエイリアシングなどの新たな AI 機能とを融合させるものです。

プロフェッショナル ビジュアライゼーション:

- [Quadro RTX™ シリーズ](#)を発表しました。これは、数百万人に上るデザイナーやアーティストの、デスクトップでのワークフローに革命をもたらすために設計されたものです。

自動車:

- NVIDIA の初のレベル 2 のオートパイロット設計が、トヨタ、[Volvo Cars](#) および[いすゞ自動車](#)で採用されたことを発表しました。
- 大手のティアワンサプライヤーである [Continental と Veoneer](#) が、2020 年代初頭に提供開始を予定する自動運転ソリューションの原動力として、それぞれ DRIVE AGX Xavier を選定したことを発表しました。
- 世界初のシングルチップのオートパイロット SOC である Xavier™ の生産開始と、[NVIDIA DRIVE AGX Xavier™ 開発キット](#)の出荷を開始したことを発表しました。
- NVIDIA の [Self-Driving Safety Report](#) を公開しました。NVIDIA の安全な自律運転の開発プロセスと、その 4 つの柱について詳細が記載されています。

エッジ AI :

- [NVIDIA Jetson™ AGX Xavier™ 開発キットが全世界で入手可能](#)となり、日本の大手企業などが、同プラットフォームを最初に採用したことを発表しました。
- [ヤマハ発動機](#)が、同社の今後の自律機械のラインアップに NVIDIA のノウハウを活用することを発表しました。

NVIDIA CFO によるコメント

NVIDIA のエグゼクティブ バイスプレジデント兼最高財務責任者 (CFO) であるコレット クレス (Colette Kress) による本四半期に関するコメントを、<https://investor.nvidia.com/home/default.aspx> でご覧いただくことができます (英語)。

カンファレンス コールおよび Web キャスト情報

2019 年会計年度第 3 四半期決算および現在の財務見通しについてのアナリストおよび投資家との。カンファレンス コールのライブ Web キャスト (視聴のみモード) は、NVIDIA のインベスター リレーションズ Web サイト、<https://investor.nvidia.com/home/default.aspx> および www.streetevents.com でアクセス可能です。Web キャストは録音され、NVIDIA の 2019 年会計年度第 4 四半期および通期決算についてのカンファレンス コールが開催されるまで再生できます。

非 GAAP 財務指標について

NVIDIA では、GAAP ベースの要約連結損益計算書と要約連結貸借対照表に加え、一部の項目については非 GAAP ベースの財務指標を使用しています。使用している非 GAAP 財務指標は、非 GAAP ベースの売上高総利益、非 GAAP ベースの売上高総利益率、非 GAAP ベースの営業費用、非 GAAP ベースの営業利益、非 GAAP ベースのその他の利益（費用）、非 GAAP の支払法人税、非 GAAP ベースの純利益、非 GAAP ベースの希薄後 1 株当たり純利益あるいは利益、非 GAAP ベースの希薄後株式数、ならびにフリー キャッシュ フローです。また、現在と過去の財務指標が比較しやすいように、GAAP ベースの財務指標と非 GAAP ベースの財務指標がどのような関係にあるのかも明らかにしています。この情報を活用すれば、関連する GAAP 財務指標から、株式報酬費用、和解費用、買収関連費用、リストラその他関連費、拠出金、関連会社以外への投資による損益、減債償却に関連する支払利息、債務関連費用、これらの項目に関連して発生する税金の影響（該当する場合）、および法人税の税制改革による税効果を除外することができます。非 GAAP ベースの希薄後 1 株当たり純利益は加重平均株式数を用いて算出していますが、その際、社債ヘッジの反希薄効果は考慮してあります。フリー キャッシュ フローは、営業活動の収益から不動産や設備、無形資産の購入費を差し引いた GAAP ベースのキャッシュ純額として算出されます。非 GAAP 財務指標の提示は、過去から続く財務状況の変遷を理解しやすくするものであると NVIDIA では考えています。なお、NVIDIA が提示している非 GAAP 財務指標はそれのみを独立して見るべきものでもなければ、GAAP ベースで用意された業績を代替するものでもありません。また、NVIDIA が提示する非 GAAP 財務指標は、他社が提示する非 GAAP 財務指標とは異なる可能性があります。

NVIDIA の最新情報は、以下の方法で入手できます。

公式ブログ [NVIDIA blog](#)、[Facebook](#)、[Google+](#)、[Twitter](#)、[LinkedIn](#) および [Instagram](#)、NVIDIA に関する動画 [YouTube](#)、画像 [Flickr](#)。

NVIDIA CORPORATION

要約連結損益計算書

(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)

(未監査)

	四半期		3 四半期累計	
	2018 年 10 月 28 日	2017 年 10 月 29 日	2018 年 10 月 28 日	2017 年 10 月 29 日
売上高	\$ 3,181	\$ 2,636	\$ 9,511	\$ 6,803
売上原価	1,260	1,067	3,547	2,782

総利益	1,921	1,569	5,964	4,021
営業費用				
研究開発費	605	462	1,729	1,290
販売費・一般管理費	258	212	725	594
営業費用合計	863	674	2,454	1,884
営業利益	1,058	895	3,510	2,137
受取利息	37	17	94	48
支払利息	(15)	(15)	(44)	(46)
雑費用 (純額)	1	(1)	12	(22)
その他利益 (費用) 合計	23	1	62	(20)
法人税費用控除前利益	1,081	896	3,572	2,117
法人税費用	(149)	58	(3)	189
純利益	\$ 1,230	\$ 838	\$ 3,575	\$ 1,928

1 株当たり純利益:

希薄前	\$ 2.02	\$ 1.39	\$ 5.88	\$ 3.23
希薄後	\$ 1.97	\$ 1.33	\$ 5.71	\$ 3.05

1 株当たりの計算に用いた加重平均株式数:

希薄前	609	603	608	597
希薄後	625	628	626	633

NVIDIA CORPORATION

要約連結貸借対照表

(単位: 百万ドル)

(未監査)

	2018 年 10 月 28 日	2018 年 1 月 28 日
資産		
流動資産:		
現金、現金同等物および市場性のある有価証券	\$ 7,591	\$ 7,108
売掛金勘定 (純額)	2,219	1,265
棚卸資産	1,417	796
前払費用およびその他の流動資産	159	86
流動資産合計	11,386	9,255
固定資産 (純額)	1,292	997
のれん	618	618
無形資産 (純額)	49	52
その他の資産	312	319
資産合計	\$ 13,657	\$ 11,241
負債および株主資本		
流動負債:		
買掛金勘定	\$ 902	\$ 596
未払およびその他の流動負債	703	542
短期転換社債	3	15
流動負債合計	1,608	1,153
長期負債	1,987	1,985

その他の長期負債	587	632
負債合計	4,182	3,770
株主資本	9,475	7,471
負債および株主資本合計	\$ 13,657	\$ 11,241

NVIDIA CORPORATION

GAAP ベースから非 GAAP ベースへの財務指標の調整

(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)

(未監査)

	四半期			3 四半期累計	
	2018 年 10 月 28 日	2018 年 7 月 29 日	2017 年 10 月 29 日	2018 年 10 月 28 日	2017 年 10 月 29 日
GAAP ベースの総利益	\$ 1,921	\$ 1,975	\$ 1,569	\$ 5,964	\$ 4,021
GAAP ベースの総利益率	60.4 %	63.3 %	59.5 %	62.7 %	59.1 %
株式報酬費用 (A)	5	8	6	21	14
和解費用	14	-	-	14	-
非 GAAP ベースの総利益	\$ 1,940	\$ 1,983	\$ 1,575	\$ 5,999	\$ 4,035
非 GAAP ベースの総利益率	61.0 %	63.5 %	59.7 %	63.1 %	59.3 %
GAAP ベースの営業費用	\$ 863	\$ 818	\$ 674	\$ 2,454	\$ 1,884
株式報酬費用 (A)	(135)	(124)	(101)	(379)	(251)

**NVIDIA**

買取関連費用 (B)	(1)	(2)	(3)	(5)	(11)
和解費用	(1)	-	-	(3)	-
リストラその他関連 費	4	-	-	4	-
抛出金	-	-	-	-	(2)
非 GAAP ベースの 営業費用	\$ 730	\$ 692	\$ 570	\$ 2,071	\$ 1,620
GAAP ベースの営業 利益	\$ 1,058	\$ 1,157	\$ 895	\$ 3,510	\$ 2,137
営業利益に対する 非 GAAP 調整の 影響額合計	152	133	110	418	278
非 GAAP ベースの 営業利益	\$ 1,210	\$ 1,290	\$ 1,005	\$ 3,928	\$ 2,415
GAAP ベースのその 他利益 (費用)	\$ 23	\$ 23	\$ 1	\$ 62	\$ (20)
関連会社以外への 投資による利益 (C)	(2)	(2)	-	(11)	-
減債償却に関連す る支払利息	-	-	-	1	3
債務関連費用 (D)	-	-	1	-	19
非 GAAP ベースのそ の他利益 (費用)	\$ 21	\$ 21	\$ 2	\$ 52	\$ 2
GAAP ベースの純 利益	\$ 1,230	\$ 1,101	\$ 838	\$ 3,575	\$ 1,928
非 GAAP 調整の 税引前合計影響 額	150	131	111	409	300
非 GAAP 調整の 法人税に対する影 響額 (E)	(91)	(22)	(116)	(199)	(224)

所得税の税制改革による税効果	(138)	-	-	(138)	-
非 GAAP ベースの純利益	\$ 1,151	\$ 1,210	\$ 833	\$ 3,647	\$ 2,004
希薄後 1 株当たり純利益					
GAAP ベース	\$ 1.97	\$ 1.76	\$ 1.33	\$ 5.71	\$ 3.05
非 GAAP ベース	\$ 1.84	\$ 1.94	\$ 1.33	\$ 5.83	\$ 3.20
希薄後 1 株当たり純利益の計算に用いた加重平均株式数					
GAAP ベース	625	626	628	626	633
債券ヘッジによる反希薄効果 (F)	-	(1)	(2)	-	(7)
非 GAAP ベース	625	625	626	626	626
GAAP ベースの営業活動によるキャッシュ純額	\$ 487	\$ 913	\$ 1,157	\$ 2,845	\$ 2,144
固定資産および無形資産の購入	(150)	(128)	(69)	(397)	(178)
フリー キャッシュフロー	\$ 337	\$ 785	\$ 1,088	\$ 2,448	\$ 1,966

(A) 株式報酬の構成は次の通り:

	四半期			3 四半期累計	
	2018 年 10 月 28 日	2018 年 7 月 29 日	2017 年 10 月 29 日	2018 年 10 月 28 日	2017 年 10 月 29 日
売上原価	\$ 5	\$ 8	\$ 6	\$ 21	\$ 14

研究開発費	\$ 88	\$ 76	\$ 61	\$ 237	\$ 146
販売費・一般管理費	\$ 47	\$ 48	\$ 40	\$ 142	\$ 105

(B) 買収関連の無形資産の償却および報酬費

(C) 関連会社以外への投資による未実現益

(D) 転換社債の早期転換に伴う損失

(E) 非 GAAP 調整の法人税に対する影響額 (GAAP 会計基準 (ASU 2016-09) に基づく株式報酬に関連する税制優遇措置の過不足の認識を含む)

(F) 現在発行済みの 2018 年満期 1.00% 転換優先社債の転換時に交付される株式数に相当。米国 GAAP では、ヘッジ取引で交付される株式数は、実際に交付されるまでは完全希薄後株式数の計算において相殺される株式数とみなされない。

NVIDIA CORPORATION

見通しの GAAP ベースから非 GAAP ベースへの調整

	Q4 FY2019 見通し	
GAAP ベースの総利益率	62.3	%
株式報酬費用の影響額	0.2	%
非 GAAP ベースの総利益率	62.5	%
	Q4 FY2019 見通し	



NVIDIA.

(単位: 百万ドル)

GAAP ベースの営業費用	\$ 915
株式報酬費用、買収関連費およびその他の費用	(160)
非 GAAP ベースの営業費用	\$ 755

NVIDIA について

1999 年における NVIDIA (NASDAQ 表示: NVDA)による GPU の発明は、PC ゲーミング市場の成長に爆発的な拍車をかけ、現代のコンピュータ グラフィックスを再定義し、並列コンピューティングに革命的变化を起こしました。最近では、GPU ディープラーニングが最新の AI (次世代コンピューティング) に火をつけ、世界を知覚し理解することができるコンピュータ、ロボット、自律走行車の脳として GPU は機能しています。詳細は、こちらのリンクから：www.nvidia.co.jp/

© 2018 NVIDIA Corporation. All rights reserved. NVIDIA、NVIDIA のロゴ、GeForce、GeForce RTX、Quadro、Quadro RTX、Jetson、NVIDIA AGX、NVIDIA Clara、NVIDIA DRIVE、NVIDIA DRIVE AGX Xavier、NVIDIA DRIVE Hyperion、NVIDIA RTX、NVIDIA Turing、RAPIDS、TensorRT および Xavier は、米国およびその他の国における NVIDIA Corporation の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有企業の商標または登録商標である可能性があります。機能、価格、可用性、および仕様は予告なしに変更されることがあります。

AI が全世界で信じられない速さで進歩していて NVIDIA のデータセンター プラットフォームでの過去最高の売上高の推進要因となっていること、NVIDIA が Turing ベースの RTX GPU を導入したことにより、コンピューター グラフィックスと AI が大きな飛躍を遂げ、リアルタイム レイトレーシングという魔法をゲームにもたらすとともに、NVIDIA が実現した中でも最大の世代的なパフォーマンス向上につながっていること、NVIDIA の短期的な業績が仮想通貨ブーム後の過剰な流通在庫を反映していることとその解消、NVIDIA の市場での地位と成長機会がこれまでないほど力強さを増していること、新たな成長市場に NVIDIA のアーキテクチャを広げるための新しいプラットフォームを投入したこと、NVIDIA が予定する 2019 年度および 2020 年度の資本の還元、NVIDIA の次の四半期現金配当、NVIDIA の 2019 年度第 4 四半期の財務見通し、NVIDIA の 2019 年度第 4 四半期の予想税率、株式報酬に関連した税制優遇措置の過不足により変動が生じるという NVIDIA の予想、本年度の GTC における出席者の予測数、NVIDIA RTX Server、RAPIDS、NVIDIA Turing GPU アーキテクチャ、NVIDIA T4 Cloud GPU、NVIDIA Tensor RT Hyperscale 推論プラットフォーム、NVIDIA Clara プラットフォーム、NVIDIA DRIVE AGX Xavier 開発キットの影響、利点、能力およびパフォーマンスならびに GeForce RTX シリーズが次世代のシェーダーとリアルタイムのレイトレーシングや新たな AI 機能とを融合すること、NVIDIA T4 の採用が急速に進んでいて、大手のコンピューター メーカーの設計で採用され、Google Cloud Platform 上でも利用可能となっていること、NVIDIA Clara プラットフォームにより次世代の医療機器に AI が採り入れられること、Quadro RTX シリーズが、数百万人に上るデザイナーやアーティストのワークフローに革命をもたらすこと、NVIDIA のレベル 2 のオートパイロット設計がトヨタ、Volvo Cars およびいすゞ自動車採用されること、Continental と Veoneer が、2020 年代初頭に提供開始を予定する自動運転ソリューションの原動力として DRIVE AGX Xavier を選定したこと、NVIDIA が Xavier の生産と NVIDIA DRIVE AGX Xavier 開発キットの出荷を開始したこと、NVIDIA Jetson AGX Xavier 開発キットが日本の大手企業により採用されること、ヤマハ発動機



が同社の今後の自律機械のラインアップに NVIDIA のノウハウを活用することなど、本プレスリリースにおける一定の記載は将来の見通しに関する記述であり、予測とは著しく異なる結果を生ずる可能性があるリスクと不確実性を伴っています。

かかるリスクと不確実性は、世界的な経済環境、サードパーティに依存する製品の製造・組立・梱包・試験、技術開発および競合による影響、新しい製品やテクノロジーの開発あるいは既存の製品やテクノロジーの改良、NVIDIA 製品やパートナー企業の製品の市場への浸透、デザイン・製造あるいはソフトウェアの欠陥、ユーザーの嗜好および需要の変化、業界標準やインターフェイスの変更、システム統合時に NVIDIA 製品および技術の予期せぬパフォーマンスにより生じる損失などを含み、その他のリスクの詳細に関しては、Form 10-K での NVIDIA のアニュアル レポートならびに Form 10-Q での四半期レポートなど、米証券取引委員会 (SEC) に提出されている NVIDIA の報告書に適宜記載されます。SEC への提出書類は写しが NVIDIA の Web サイトに掲載されており、NVIDIA から無償で入手することができます。これらの将来予測的な記述は発表日時点の見解に基づくものであって将来的な業績を保証するものではなく、法律による定めがある場合を除き、今後発生する事態や環境の変化に応じてこれらの記述を更新する義務を NVIDIA は一切負いません。